

特定機能病院 地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター広報誌
「オーアイシーアイだより 2024年冬号」Osaka International Cancer Institute
季刊 ボリューム13 2024 Winter

Contents

- 2 ページ 世界はつ！とうさによる間質性肺炎の新規診断法を開発抗がん剤副作用チェックへの活用をめざす
- 3 ページ 第3回合同藤がん教室を開催しました&大阪じょう・太陽の塔のライトアップが実現しました！
- 4 ページ 胃がんセンターの取り組み
- 5 ページ上段 看護部国際看護交流 PART2 ～Welcome to Osaka International Cancer Institute～
- 5 ページ下段 成人病公開講座・スキンケア教室（オンライン配信）のお知らせ
- 6 ページ上段 2階診察室の変更についてご案内
- 6 ページ下段 新電子カルテシステム移行につきましてお知らせとお願い
- 7 ページ上段 「オーアイシーアイだより」に関するアンケートにご協力をお願いいたします
- 7 ページ下段 【連載】はい、こちら「がん相談支援センター」です
- 8 ページ上段 寄付者ごほうめい
- 8 ページ下段 ご寄付のお願い

2 ページ

世界はつ！とうさによる間質性肺炎の新規診断法を開発 抗がん剤副作用チェックへの活用をめざす

当センターとうさオンコロジー部(部長・谷口 直之)は、このたび、とうさによる間質性肺炎や肺がんなどの新規診断法を開発しました。その研究結果が、古い歴史をもち数多くの重要論文を発表してきた研究学術誌 *Journal of Biological Chemistry* に掲載されました (doi: 10.1016/j.jbc.2023.105365 をインターネットで検索されると、論文の原文をみることができます)。本研究は当センターとうさオンコロジー部の大川 祐樹チームリーダーと研究アシスタントのかんと 紀子氏が中心となり、当センターの呼吸器外科・呼吸器内科・成人病ドック科、および日本医科大学、東北医科薬科大学、大阪大学、岐阜大学の研究グループと共同でおこなったものです。

研究の背景

私たちの体は主にタンパク質でできており、そのタンパク質の半分以上にはとうさが付いています。とうさはグルコースやマンノース、フコースなどと呼ばれる砂糖やかとうの成分が鎖状につながったもので、タンパク質に付くことで、そのタンパク質の機能を制御します。本グループはこれまでに、がんを合併しやすいシーオーピーディー（慢性閉塞性肺疾患の略。主に喫煙によって発症し、肺(肺胞や気管支)の炎症や破壊が起き、息切れを生じる病気。肺がんの合併も多い）や潰瘍性大腸炎（大腸や直腸などにみられる慢性的炎症性疾患。腹痛、下痢、血便などの症状がみられる。免疫の異常や遺伝子の異常などが原因といわれているが、その詳細はまだよくわかっていない。大腸がんの合併もみられる）などの疾患で、コアフコースというとうさ（FUT8(α 1,6-フコシルトランスフェラーゼ)という糖転移酵素(とうさを合成する酵素)によってつくられるとうさ構造。フコースという糖がN型とうさの根本部分に付いている構造)が、それら病態の悪化に関連することを明らかにしてきました。この背景を受けて、本研究では血液中に豊富に存在するイムノグロブリン (IgG) (免疫グロブリンのひとつ。ヒトの抗体成分。可変領域(Fab)と定常領域(Fc)があり、定常領域にコアフコースを持つとうさが付加されている) のコアフコースとうさの解析をめざし、コアフコースとうさを高感度に認識できる特異抗体を作製し、その抗体によるかんべん・迅速な測定法を開発を行いました。

研究手法と成果

当研究グループが開発した方法は、ラテックスぎょうしゅうひだくほうといい、抗体を結合させたラテックス粒子と少量の血液を混ぜた後、光の吸収度を測ることで血液中のレベルを迅速・かんべんに測定することができる方法です。この方法により、肺がん、間質性肺炎（肺の肺胞や気管支、それらのさいどうみゃくの周囲などの炎症性疾患の総称。薬剤、放

射線、ウイルス感染、化学物質の吸引など、その他多くの原因で起こる。原因のわからない特発性間質性肺炎は、特に肺がんと合併が多い)、シーオーピーデー、およびけんじょうにんの方々の血液を計測したところ、それらの疾患においてコアフコースとうさを持たないイムノグロブリン (I g G) が著しく増加していることがわかりました。その変化は特に間質性肺炎で顕著でした。

そのメカニズムを解明するために、肺がん細胞とイムノグロブリン (I g G) 産生細胞における遺伝子発現解析を行いました。その結果、肺がん細胞から分泌される CCL2(C-C motif chemokine ligand 2)というタンパク質がイムノグロブリン (I g G) 産生細胞に働くことで、コアフコースとうさを付けるために働く FUT8(α 1,6-フコシルトランスフェラーゼ)遺伝子の発現を強く抑えることがわかりました。

今後の期待と展望

これまでに、コアフコースとうさ構造の解析は、主に液体クロマトグラフィーや質量分析という極めて複雑で専門的な方法で行われ、病院での検査には不向きでした。一方、抗体による解析は非常にかんべんで定量性に優れています。よって本研究のように、コアフコースとうさを解析できる抗体を用いた測定法は、世界で初めてのかんべん・迅速でユニークな診断法になることが期待されます。

抗がん剤治療の副作用として、しばしば間質性肺炎が起こり、命にかかわるほど重篤になることがあります。できるだけ早くみつけて処置することが必要ですが、現時点ではその方法がありません。今回、開発された方法は、血液を使って間質性肺炎の診断をかんべんに行うことができるため、人間ドックなどの健康診断で使用することや、がん治療の副作用をモニタリングすることに利用できると想定しています。今後とも開発を続け、いちにちでも早く、大阪府民や国民のみなさまの健康増進に役立てるよう尽力してまいります。

3 ページ

第 3 回合同膵がん教室を開催しました&大阪じょう・太陽の塔のライトアップが実現しました！

肝胆膵内科副部長・膵がん教室代表 池澤 賢治

このたび 2023 年 11 月 25 日に、北海道膵がん教室・パンキャンジヤパンのみなさまと、大阪府・大阪市・北海道・札幌市のご後援のもと、第 3 回合同膵がん教室を開催させていただきました。当センターの膵がん教室はチーム同士の交流をもとに、2021 年 11 月に第 1 回、2022 年 11 月に第 2 回の合同膵がん教室を北海道膵がん教室・パンキャンジヤパンのみなさまとオンライン開催させていただきました。第 3 回を迎えた合同膵がん教室にあたっては、パンキャンジヤパン・NPO 法人大阪がんええナビ制作委員会のみなさまのご尽力、行政のみなさまのご理解もあり、大阪じょう・太陽の塔・札幌テレビ塔・沖縄琉球新報の同時ライトアップが世界膵臓がんデーである 11 月 16 日に実現しました。

また 11 月 25 日の合同膵がん教室は完全オンラインで開催させていただき、リアルタイム視聴で 200 名を超える参加者にご視聴いただきました。総長・松浦からあいさつのあと、池澤から膵がんの診断・治療のポイント、最新のトピックス〈コンバージョン手術（診断時点では手術が難しいと判断された患者さんが、抗がん剤などの治療により手術が受けられるようになること）・遺伝子診断〉についてご紹介しました。続いて、手稲溪仁会病院薬剤師・平手先生から膵がんの抗がん剤治療および副作用、当センター・藤岡看護師から膵がん治療中の日常生活の注意点、北海道大学病院管理栄養士・池田先生から治療中の食事を楽しむコツについてそれぞれご講演いただきました。当センター肝胆膵内科・高田医師によるリフレッシュタイム（ストレッチ）の後、会の後半のパネルディスカッション（上記メンバーに加え、手稲溪仁会病院副院長・安保先生、北海道大学大学院医学研究院消化器げかがく教室Ⅱ・中村先生、当センター消化器外科・秋田医師、当センター放射線腫瘍科・宮崎技師がご登壇）では、患者さんやご家族から事前に寄せられた多数のご質問を踏まえて、副作用に対する対処、最新の放射線治療のご紹介、コンバージョン手術についてのお考えなど幅広く膵がんのトピックスについてお話をさせていただきました。

最後に、フリーアナウンサー・子守 康範さまのご紹介で、膵がん教室テーマソング“希望の光”（作曲：作曲家・饗場 公三さま、作詞：当センター内科・外科系外来・山田師長）を放映し、会を終了しました。開催後の反響として多数の参加者のみなさまからご好評の声を頂き、見逃し配信の視聴回数も約 800 回となっています。このたびの合同膵がん教室開催・ライトアップにあたりご尽力・ご協力いただきましたみなさま、またご参加いただいたみな

さまに心より御礼申し上げます。

当センターの膀胱がん教室は、たくさんの職種のメンバーが連携して一つのチームとして活動できることが強みです。当センター膀胱がん教室 YouTube 公式チャンネルでのアーカイブ配信の取り組みも開始しました。患者さんやご家族のかたのニーズに応えられるような形での情報発信の機会をさらに増やしていけたらと考えています。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

当センター膀胱がん教室ユーチューブ公式チャンネル

https://www.youtube.com/@OICI_PCS

4 ページ

胃がんセンターの取り組み

日本をはじめとする東アジアでは世界的にも胃がんの罹患者数が多く、中でも日本は世界の胃がん治療をリードする立場として治療開発をおこなってまいりました。その成果である胃がん治療ガイドラインには、現在までに得られた知見を元に最善と思われる治療方法が掲載されています。当センターは、がん専門施設として、豊富な診療経験を元に全国でも有数の治療成績を示し、特徴的な治療もご提供しています。

- 早期胃がんや粘膜下腫瘍（一定の条件を満たすものに限る）に対しての内視鏡治療
- ふくくうきょう・ロボット支援手術におけるたんこうしきしゅじゅつ（穴が一つ）の胃切除術
- ステージフォーと診断した胃がん患者さんに対して化学療法後に行う手術（コンバージョン手術）ただし、コンバージョン手術の適応には、一定の条件を満たす必要があります

これらの治療の恩恵を受けていただくためには、それぞれの患者さんの身体症状や条件、社会的背景などを踏まえて提案する必要があり、より高度化・専門化・多様化する治療をいかに患者さんに提案・理解いただき、治療の継続につなげるかを考えていく必要性に直面しました。そのような課題を解決するため、胃がん診療に関わる部門が一つになり、たしよくしゅスタッフが一丸となって患者さん目線の治療を実践すべく、2022年4月“胃がんセンター”を開設しました。

胃がんセンターでは、月に一度の会議を中心に、よりよい療養を目指して各部門からの提案を元にさまざまな取り組みを進めております。具体的な取り組み例としては、胃がん治療前の歯科検診の開始や、術後の肺炎予防や摂食のサポートなどの開始、リハビリテーション部門による治療前・治療中の筋力低下や治療に伴う運動機能低下に対する早期リハビリテーションへの介入、栄養腫瘍科による治療中の継続的栄養指導などが挙げられます。各治療担当科との打ち合わせ、情報共有の中で実施することで安全かつ継続可能な介入ができるだけでなく、取り組みに対するフィードバックを元によりよい介入が検討できる状況が生まれています。

今後は、患者さんの社会復帰・治療継続のサポートを目的に、胃がんセンターを通じた地域医療連携を推進することを計画しています。当センターの主治医と地域の先生方で“二人主治医制”を構築することで、より社会生活がしやすい環境整備を進めたいと考えています。

新たに受診をご検討中の患者さんやご紹介いただく先生がたにおかれましては、具体的な治療方法が不明であったとしても、胃がんセンターを受診またはご紹介いただくことで、

胃がんセンターないでの情報共有により適切と考えられる診療科へのご案内が可能になります。

また、事前にご相談を希望される患者さんにつきましては、胃外科のホームページ内で、疑問に思われていることなど、受診のサポートを行う目的で個別のメール相談（無料）（gastriccancer@oici.jp）をお受けしておりますので、ご利用ください。詳しくはホームページをご覧ください。

【ご注意】 個別のメール相談は、当センターで治療をご希望のかたのみでお願いします。

胃がんセンターホームページ <https://oici.jp/hospital/department/igancenter/>

5 ページ上段

看護部国際看護交流 PART2

Welcome to Osaka International Institute

看護部 山根 康子

昨年度に引き続き、今年度も 10 月 23 日にタイのマヒドン大学看護学部から 2 名の院生の看護師さんが当センターに来られました。小児看護学専攻のお二人の目的は、当センターで「AYA 世代の看護の実際を学ぶ」ことです。看護部国際化ワーキンググループのメンバーの自己紹介のあと、当センターの概要について NiNA（日本国際看護師）の幸野看護師（HCU）が流ちょうな英語でプレゼンテーション。みなさん本当にかっこよくて素敵！ おかげで、終始和やかな雰囲気での交流会が進みました。院内見学では、NiNA の山田看護師（外来）と武輪看護師（ICU）が、山田師長、西野師長、小山師長と共にご案内しました。がん専門病院としての当センターの規模の大きさ、がん治療の実際や設備面、そしておもてなしの対応にも感動しきりのお二人でした。

そして今回は、英語通訳サポートの中央手術室 アギラルマサ友里亜看護師と外来事務補助 コウさんの Nice サポートがあり、円滑なコミュニケーションを図ることができました！

看護部では今後も国際がんセンターとしての役割を果たすべく、国際化に向けた対応力の向上に取り組んでまいります！！

5 ページ下段

成人病公開講座・スキンケア教室（オンライン配信）のお知らせ

当センターでは、成人病公開講座およびスキンケア教室をオンライン配信しております。当センターのホームページより視聴いただくことができます。ぜひご覧ください。

成人病公開講座では、当センターの診療科における専門の医師が、それぞれのがんの特性や、診療・治療に関する内容を詳しく解説、またそれらの医療に対する連携などの取り組みについて紹介されています。

成人病公開講座の動画掲載ページ <https://oici.jp/hospital/movie/?moviecat=koukaikouza>

スキンケア教室では、当センターの医師・薬剤師・看護師・美容師ががん薬物療法に伴う皮膚乾燥、ひしん、かゆみ、脱毛、そういえんなどの皮膚障害に対するスキンケアの方法をお

伝えしています。

スキンケア教室動画掲載ページ <https://oici.jp/hospital/movie/?moviecat=skincare>

6 ページ上段

2階診察室の変更についてご案内

2023年11月6日より、2階診察室の一部を変更いたしました。再来受付機から出力される受付票でブロック受付番号、診察室番号をご確認の上、診察室前でお待ちください。

受付・医師事務・看護師・医師など関係職種が連携し、外来診療をスムーズに受けていただけるよう心掛けます。

6 ページ下段

新電子カルテシステム移行につきましてお知らせとお願い

病院長 大植 雅之

2024年1月1日より、当センターは最新の電子カルテシステムへ移行いたしました。この新システムは、センター内の情報共有と伝達を効率化し、患者さんへのよりよいサービス提供を目指すものです。

この移行に向けて、当センターでは昨年よりスタッフの操作訓練とリハーサルを積極的におこなってまいりました。しかしながら、新システムへの切り替え初期には、予期せぬトラブルや操作の不慣れにより、診察や会計時の待ち時間が通常より長くなっております。また、システムの不具合や操作上の問題が発生した際には、システム担当者が診察室に入ることもございます。

このような状況は一時的なものであり、迅速に解決を図るために全力を尽くしております。ご不便をおかけしておりますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今後は、患者さんがスムーズに診察を受けていただけるよう、「スマートフォンで予約確認」「呼び出しサービス」「電子問診票システム」の導入を予定しております。サービス開始日は改めてお知らせいたします。

7 ページ上段

「オーアイシーアイだより」に関するアンケートにご協力をお願いいたします（全部で6 もんです）

当センターでは、旬なできごとなどを院外広報誌へ掲載させていただくことで、患者さんやご家族との架け橋になりたいと考えています。

よろしければ、ぜひみなさまのお声をお聞かせ願えますと幸いです。

アンケートフォーム

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdovYFoVLQR7ZERPemsPgp0TjQyrYJok8p1Hf8bfKE-X-FqnA/viewform?vc=0&c=0&w=1&flr=0>

7 ページ下段

【連載】はい、こちら「がん相談支援センター」です
がん相談支援センター 中村 仁美

【ファイル 13】介護が必要になった場合どうすればよいの？

がんになってもあなたらしく暮らせるように、自宅療養を支える制度やサービスがあります。今回は介護が必要になった時に安心して自宅や地域で日常生活を過ごせるように支援する「介護保険制度」についてご紹介します。

対象者

- 1 65 歳以上で介護が必要になったかた（病名は問わない）
- 2 40 歳以上 64 歳以下の特定疾病により（厚生労働省が定める 16 種類の病気）介護が必要なかた

「がん」は特定疾病に含まれますが、病状により申請対象になるかどうか主治医の判断が必要になります。

申請方法

住民票のある市町村で申請（郵送申請が可能なところも多い）または、高齢者の生活上のお困りごとに対しての総合相談窓口である「地域包括支援センター」で代行申請が可能です。その後、認定調査や審査を経て介護が必要と判断されると個別の状況に応じて、以下のサービスの利用を検討することができます。

利用できるサービスの一例

- ・ 自宅で利用：訪問介護、訪問リハビリ、訪問看護
- ・ 通いで利用：デイサービス、デイケア
- ・ 入所する：施設に短期入所（ショートステイ）
- ・ 福祉用具貸与：介護ベッド、車いす、手すりのレンタルなど
- ・ 住宅改修：持ち家の段差解消など工事を伴うもの

安心してがん治療を続けていくためには療養環境を整えることも大切になります。
生活面で何かお困りごとがあれば、お気軽にがん相談支援センターまでお声がけください。

がん相談ホットライン 情報提供・相談専用 06-6945-1870

希少がんホットライン 06-6945-1177

電話対応時間 月曜日から金曜日 祝日・年末年始を除く 午前 10 時から午後 4 時

8 ページ

ご寄付について

寄付者ごほうめい 2023 年 10 月 1 日から 12 月 31 日 受領日順／ご希望者のみ掲載

クニモト サチオ様、オウ カネイ様、ウエクリ ユタカ様、マエダ ハルオ様、株式会社
ハイメディック ダイヒョウトリシマリヤクシャチョウ フシミ アリヨシ様、キノシタ
エイジ様、オオノ オサム様、ヤツヅカ ヒロシ様、フジラテックスカブシキカイシャ ダ
イヒョウトリシマリヤクシャチョウ コンドウヤスヒロ様、リー ムーツン様、トノ ヒサ
コ様、タマダ マサノブ様、オカダ カズオ様、イシツボ サワノ様、赤松 芳樹様、ヤマ
モト エミ様、カシワ ユキオ様、フジイ マサル様、ハヤシ トモヒロ様、ニシヤマ ト
オル様、ニシヤマ ケイブン様、アサクラ ユウ様、ムラカミ ショウイチ様 ほか 匿名
者 24 名

このたびもさまざまな個人や法人の方々から、貴重なご寄付を頂きました。ありがとうございます。

この温かいお心遣いに感謝するとともに、このご厚意に報いるべく、これからも患者さんによりよい医療とサービスを提供してまいります。

ご寄付のお願い

当センターは、常に「患者さん目線」で治療に当たるセンターでありたいと考えています。患者さんの療養環境の改善や充実した医療を提供していくため、みなさまからのご支援をお願いしています。

当センターのご寄付に関するホームページでは、ご寄付の活用方法や税制上の優遇措置について紹介しております。

みなさまのご支援を心よりおまちしております。

お申し込み方法など詳細はホームページをご覧ください

ご寄付のお申し込み方法ホームページ <https://oici.jp/center/effort/donation/>

奥付

オーアイシーアイだより 2024 年冬号〈季刊〉

特定機能病院／地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター

発行 大阪国際がんセンター

編集 事務局 総務・広報グループ

〒541-8567 大阪市中央区大手前 3-1-69

TEL 06-6945-1181 (代表)

2024年1月発行

◆電車でご来院の場合

大阪メトロ「谷町四丁目駅」北改札口から徒歩約5分／京阪電車「天満橋駅」東改札口から徒歩約10分

◆お車でご来院の場合

東大阪線「法円坂出口」より約5分／東大阪線「森之宮出口」より約8分

【提携駐車場】

- ① エコロパーク大阪府庁駐車場
- ② 谷町筋地下駐車場（入り口は北向き1カ所のみ）

補助犬も同伴いただけます

ホームページ <https://oici.jp/>

フェイスブック <https://www.facebook.com/OICI.jp>

ライン <https://lin.ee/ZOcDHhU>